

136. 竹久夢二筆「黒船屋」修復事業

公益財団法人竹久夢二伊香保記念館 理事長 木暮 香峰子

<修復前>

表具全図



本紙全図



黒船屋

掛け軸 絹本着色
本紙 130.0 × 50.6cm
掛け軸全体 219.5 × 65.7cm

群馬県

解説

本作は表具師・飯島勝次郎氏が表装の展覧会に出品するために竹久夢二に依頼し制作されたもので、表装は飯島氏自身の手による。飯島氏の書簡から1919年の作と考えられ、描かれた女性は自叙伝『出帆』から推察するに、最愛の人・彦乃であろう。竹久夢二（1884～1934）は大正ロマンを代表する画家として知られるが、「黒船屋」はその代表作として高く評価されている。

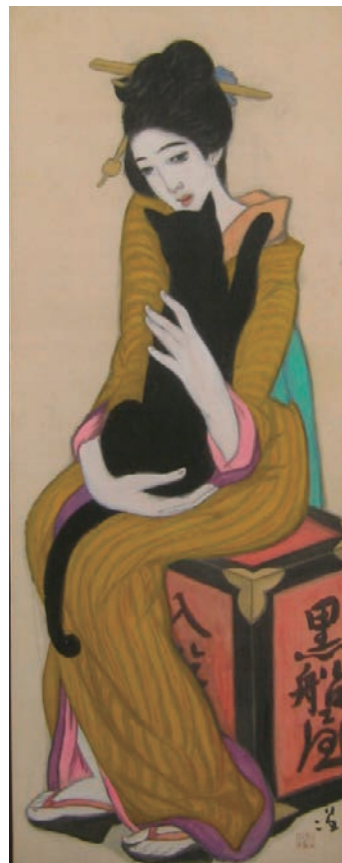
本作は制作から100年以上が経過し、本紙の横折れ、ゆがみ、表装裂の裂け、金箔の剥離が見られる。今回の修復が国内外の多くの方に竹久夢二を知っていただく機会となり、明治・大正・昭和初期に活躍した夢二の美術的価値を改めて考える契機になることを期待している。

<修復後>

表具全図



本紙全図



修復業者

清心堂鈴木表装店

修復内容

軸全体のたわみ、上部の歪み、裏打ちの糊浮き、裏面上部の上巻きの擦れが見られた。これらについては仕立て直しにより改善した。

濃紺の裂地については、本作の制作経緯を鑑み、現行のものを再利用した。上部の色むら、裂地表面の小さなシミは現状維持の判断を行った。

本紙・絵の具に関しては全ての色で色落ちのテストを敢行。膠の水溶液を塗布し、色落ち、剥離止めを行った。シミについては、表面のクリーニングを行い、裏面は新しい和紙で裏打ちを行った。

八双又の裏側、裂地に生じていた裂けについては、裏からの補強修理と八双又をずらす事で改善した。欠損していたふくりんは、新たに本金箔にて修繕した。軸先には太巻用の芯を追加した。

令和 7 年 5 月 8 日

竹久夢二伊香保記念所蔵
竹久夢二・絹本彩色画掛軸〈黒船屋〉
保存修復報告書

清心堂鈴木表装店
前橋市若宮町 3-8-2
TEL/FAX(027)233-8958

掛軸表装全体・本紙の調査結果と修理処置

掛軸上部の八双の取り付け方が通常の仕立て方とは異なります。

通常、表の裂地を八双上部から裏に折り曲げ八双に貼り裏の上巻きを折り曲げた裂地の上にかぶせるように貼りますが、本掛軸は八双上部に「きめ貼り」で仕立ててある。(おそらく金箔のふくりんを取るためには通常の仕立て方では不可能であつたためと考えます。)

*修復前と同じ仕様で仕立てた。

掛軸全体に波打つようなたわみが見受けられ、特に上部は歪んでいる。

*仕立て直しにより改善した。

本紙の裏表にシミが何か所も出ている。

*表はクリーニングよりシミは目立たなくなった。

裏は新しい和紙で裏打ちを行ったため元のシミは無くなったが黒の裂地の染料が裏に染み出た。(事前協議で承知済み)

八双又の裏側に切れが起きている。

*裏から補強修理を行い八双又をずらす事で改善した。

裏面の裏打ちに糊浮きが多数みられる。

*仕立て直しにより改善した。

裏面上部の上巻きは擦れて薄くなっている。

*仕立て直しにより改善した。

本紙・絵具に関しては赤系(ピンク)青系・緑系・黄色・黒など全ての色で綿棒に水分を含ませ絵具の上を適度な強さで押しころがし色落ちのテストを行いました。

このテストでは猫の黒が多少落ちる事がわかりました。

上記以外の全ての色で今回のテストでは問題はありませんでした。

*膠の水溶液を塗る事で色落ち、剥離止めを行った。

裂地の黒は修復前のテストでは綿棒が黒くなり染料が落ちる可能性がある。

*水分を加え裏打ちの除去を行う際に色落ちが起こる事が分かり夢二館との協議の結果、そのまま再利用する事とした。

裂地の黒は特に上部に色むらが見られる。

*現状維持

裂地表面に小さなシミが数か所見られる。

＊現状維持

裂地の軸又の部分がほぼ切れている状態で裏打ち紙が白く見える。

＊八双又と同様、又をずらす事で改善した。

ふくりんの本金箔が所々剥がれ欠損している。

＊新たに本金箔にてふくりんを取り直した。

本紙の絵具・技法について

＊絵具は岩絵の具・胡粉で画かれ、絹本画に用いられる事のある「裏彩色」の技法は用いられてなかった。

【修理表装概要】

① 修理前調査

＊修理前の写真撮影・各寸法記録・損傷状態撮影を行った。

② 本紙の修理処置

＊剥離止めのため劣化している絵具の剥落予防のため三千本膠の水溶液を塗布して定着させる。

＊経年の汚れをドライクリーニング後、水分を加え煤等を和紙に吸い取らせと除去した。

＊画面の保護のため布海苔にて表打ちを行った。

＊裏彩色の技法が用いられて可能性があり、絵具の部分は乾式肌上げ方工法を用いて古い裏打ち紙の除去を進めた。途中、裏彩色が無いことが分かり一般的な水分を加える方法で裏打ち紙の除去を行った。

③ 表装裂地の再利用

＊本紙に切り継ぎされていた裂地はパーツごとに取り外した。

＊水分を加え古い裏打ち紙の除去を行った。

＊裏打ち紙の除去後、水分を加え直角、曲がり、糸のほつれが無いように煤等を和紙に吸い取らせと除去した。（色落ちがあった。別紙参照）

＊軸又は既に繊維の劣化のため切れそうになっているため 1 回目の裏打ち後に補強修理を行った。

裂地の両サイドは金箔紙で覆輪が取られており所々その金箔が剥がれているため除去後、改めて本金箔紙にてふくりんを取った。

④ 本紙と表装裂地

＊本紙は肌裏、増裏と 2 回裏打ちを行った。

＊裂地は肌裏、増裏と 2 回裏打ちを行った。

＊本紙と裂地を切り継ぎ後、中裏紙、総裏紙を行った。

＊1 回の裏打ちごとに仮張りに貼りこみ乾燥を繰り返した。

⑤ 仕上げ

＊軸先、軸棒、八双、鈚、紐を取り付け仕上げた。

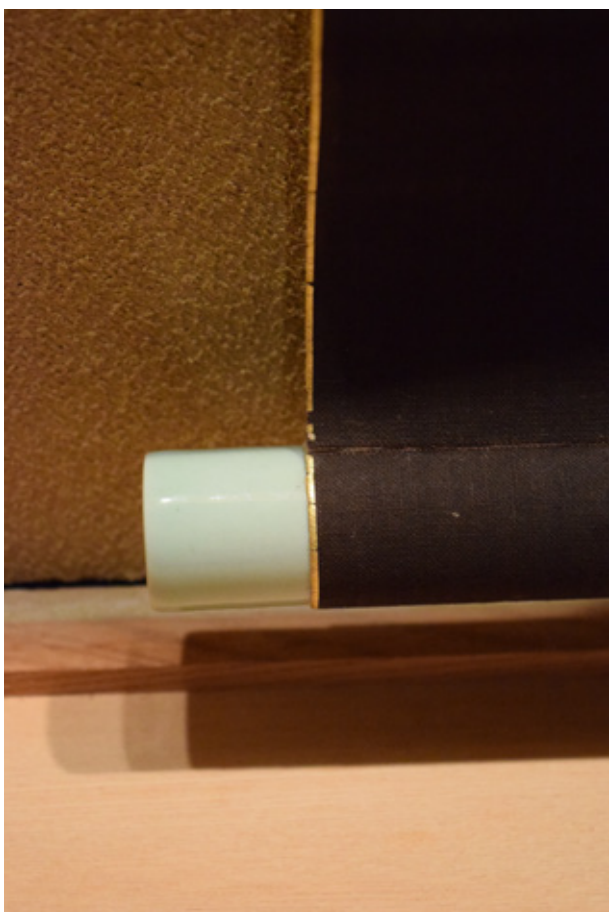
⑥ 保存箱

＊掛軸を桐製太巻き芯に巻き、現在の箱書きのある桐箱と共に並列に収まる桐箱に収納。

1) 申請時の状態



軸全体に横折れ、膨らみ、ゆがみが見られた



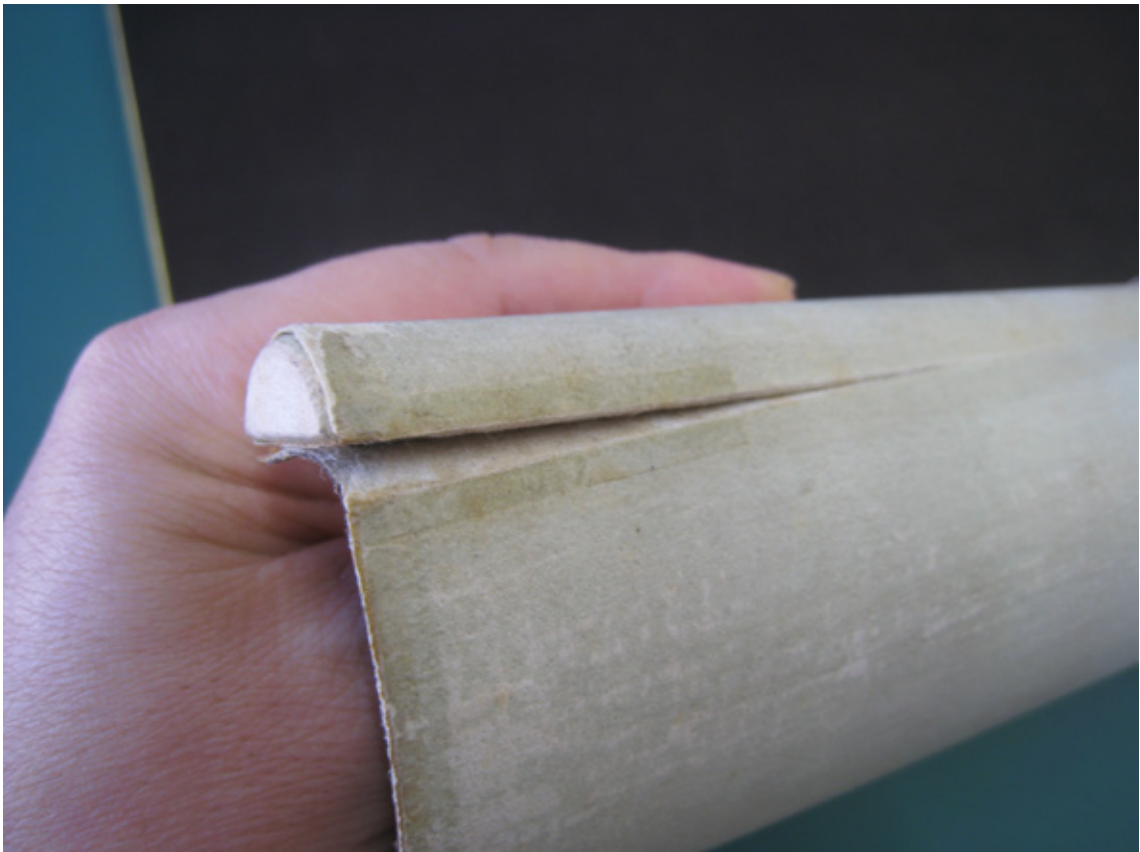
裂地を囲うふくりんの金箔の剥がれが所々に見られた



2) 清心堂鈴木表装店による修復前調査



表面に見られるシミ



八双又裏側に切れが生じている。上巻も擦れてかなり薄くなっていた



糊浮きが多数見られる



染料の色落ちが指摘されたが、作品制作経緯を鑑み裂地は再利用することに。修復作業による多少の色落ちについてはやむを得ないと判断した

3) 本紙の修理処置



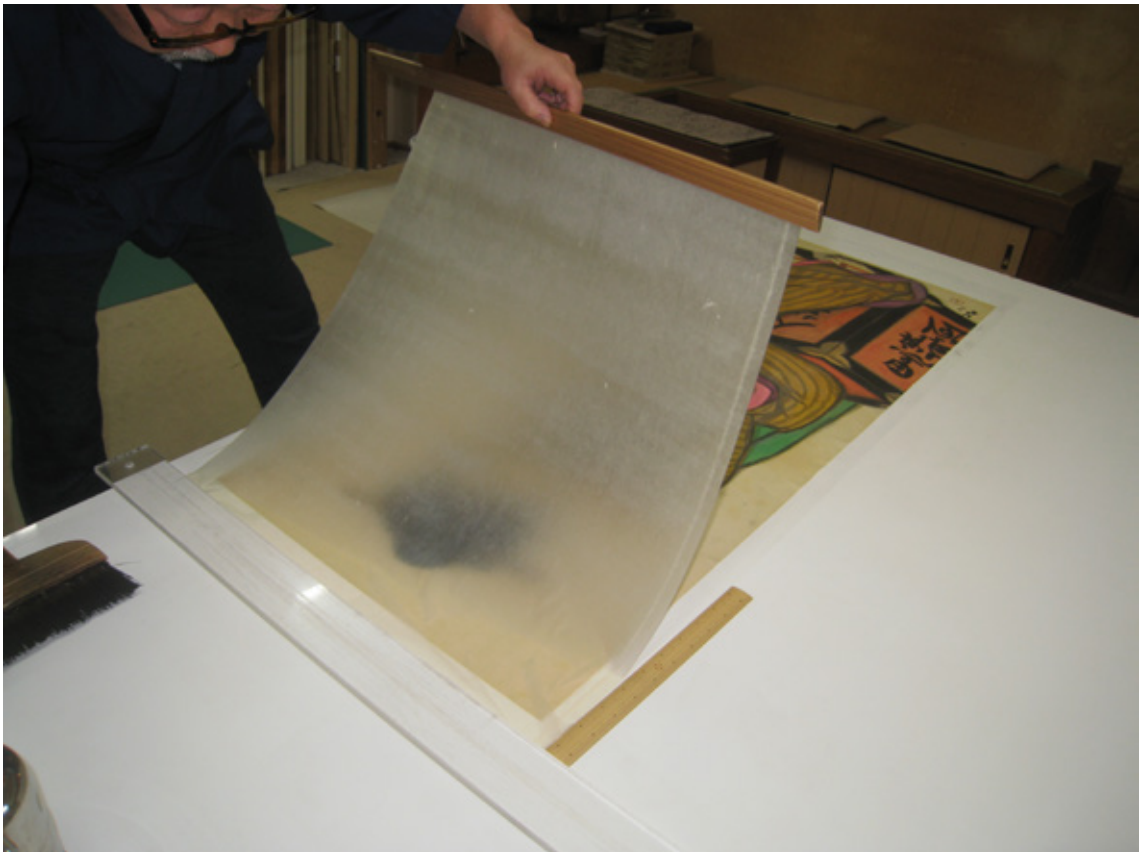
色止め



本紙のクリーニング。柔らかい刷毛で埃や煤を払った（ドライクリーニング）後、霧吹きで水を和紙の上から乗せ、汚れを吸着させる



古い裏打ち紙の除去



新しい裏打ち紙を貼る

4) 表装裂地の再利用

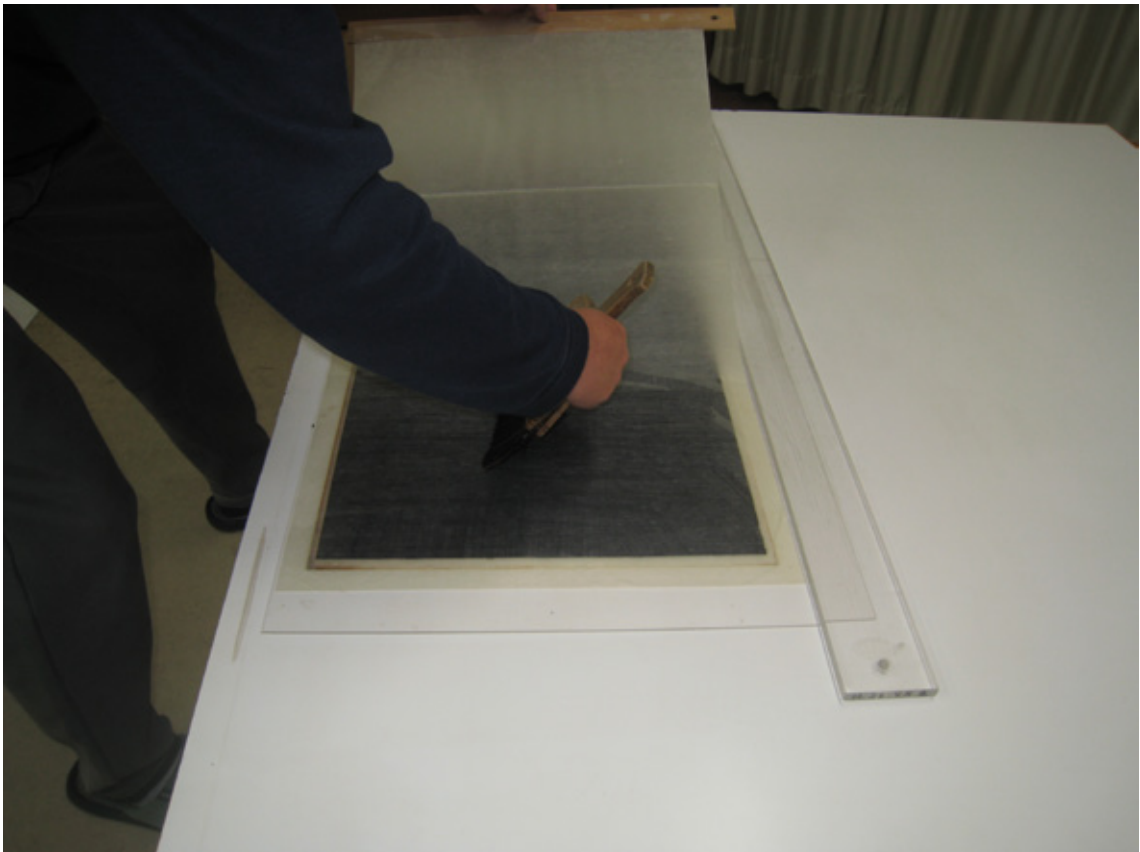


裂地の解体



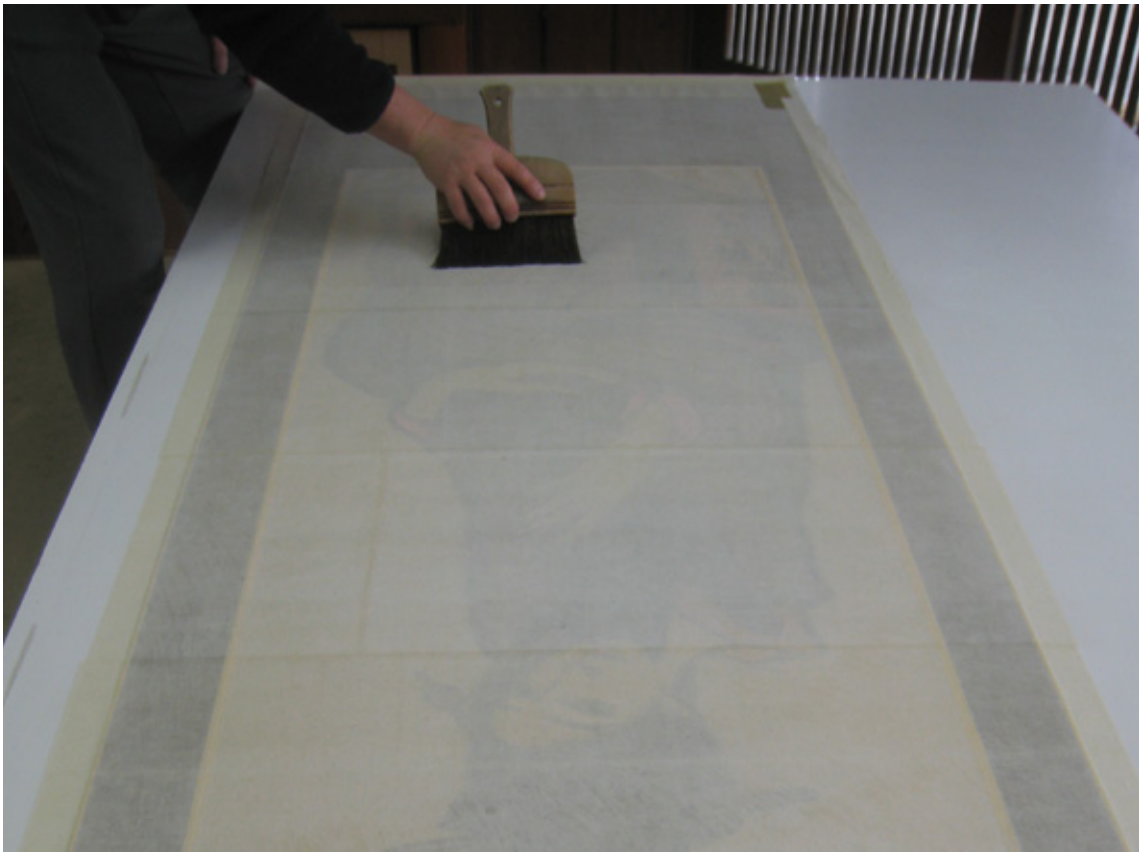
古い裏打ち紙の除去

⑤本紙と表装裂地の増裏





付け廻しを行い軸の形へと戻す



6) 空張り前の裏擦り 仕上げ



掛軸裏面全体にいぼた蝋を塗り数珠を用いて擦る事で滑りをよくするとともに全体を滑らかにする効果があり、その後は空張りし乾燥、仕上げ



今後の保存状態を考慮し、新たに太巻芯を作成した

7) 修復後の状態



全体の折れや歪みが修正され、美しい姿が甦った



元々の桐箱を合わせて収められるように桐箱を新調



